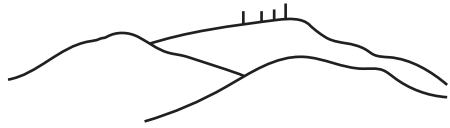


# Youth Manna

2022/2/7 - /2/13



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2022/2/7(月)

## 申命記 18 章

異邦の民の忌み嫌うべき慣わしを真似せず、主に対して全き者であるように！(13節)

①主が与えようとしておられる約束の地に入る時、異邦の民の忌み嫌うべき慣わしを行なってはならない(9-12節)

②主が命じていないことを不遜にも神の名によって告げたり、また他の神々の名によって告げたりする預言者があるなら、その預言者は死ななければいけない。彼らの言うことを聞いてはならない(20、23節)

終わりの時代には、神の名を乱用してあたかも正しいと主張する人達が現れるとイエスも教えている(マタイ 24:4-5)。今日感じる事、悩んでいる事について、「聖書のみことばを理由に」判断できるように、その知恵が与えられるよう祈ろう！

2022/2/8(火)

## 申命記 19 章

意図せず人に死なせてしまった場合、その人が復讐から保護されるためにその町に逃れることができた(1-13)。これは公正な裁判がなされる前に、復讐によって殺されることのないためだった(民数記 35:12)。

21節はどういう意味だろう。これはやり返すことを許可するための教えではない。やられた人の心が「倍にして返してやる」という怒りや憎しみで支配されることのないように、正義と公正がなされるための神様の知恵によって命じられたことなんだ。

神様は、私たちが愛と赦しに向かうことを願っておられるよ(マタイ 5:38,39)。イエスは、ご自分のいのちをもってそのことを実際に表してくださいました。神様が私たちに願われていることは、愛することです。いつでも愛の中を歩めるようにお祈りして出ていこう！

2022/2/9(水)

## 申命記 20 章

この定めは、戦いについての手引きや戦略ではない。神の民に対して「あなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神、主があなたとともにおられるのだから」との一貫した主の約束がある。この約束に基づいて、「恐れるな」と励まされている(1,3)。

攻略するのが非常に遠く離れている町の場合は、降伏を勧めるよう語られている(10)。また、戦いに勝利したときには、「聖絶しなければならない」という厳しい命令がある(17)。これらの命令の根底には十戒があり、イスラエルの民が異教の神に心を移すことがないようにと神が定めておられる。

神が命じられていることを、信仰によって行っていくことができるよう祈ろう！

2022/2/10(木)

## 申命記 21 章

今日の箇所では、約束の地という新しい環境の中での定めが記されている。

- ・犯人不明の殺人事件の解決
- ・捕虜の女性を妻にする場合の定め
- ・親の言うことを聞かない子どものさばき
- ・死刑に処した者を木につるした場合の定め

これらは、今の時代に生きる私たちには関係ないように感じることであるが、今回の箇所から受け取るべきことは、イエス様が私たちのためにのろわれた者(22,23)となることで、私たちを救い出してくれたと言うことである(ガラテヤ 3:13)。

十字架という救いを改めて受け取ろう！

2022/2/11(金)

## 申命記 22 章

1-4節では「同族の者」と書いてあるけど、出エジプト記 23:4,5では「敵」とある。自分にとってどのような人であっても、愛することが神様が命じていることだね。困っている人、迷っている人がいたら、見て見ぬふりをせず、愛を表そう！

13-30節には、結婚と家庭に関して書かれているよ。結婚外の性的関係が禁じられているのは、結婚が神様の創造されたものであり、性的関係が結婚の中に特別に与えられているものだからなんだ。そこに大きな祝福があるからこそ、罪や汚れで家庭が壊されないように戒められているんだ。

もし、恋愛や結婚を、自分の好き勝手に楽しみたいという思いがあるなら気を付けよう。素晴らしい恋愛や結婚を願うのなら、それらをデザインされた神様を恐れず、純潔を守ることが若いときから決断しよう！

2021/2/12(土)

## 申命記 23 章

今日の箇所では、主の集會に参加できる条件や、身を汚さないために必要なこと、神様に誓いを立てる時に気をつけることが記されているね。

神様はご自分の民に対して『きよくいること』を願われた。それは偶像礼拝をしないだけでなく、自分の身体をきよく保つことや、周りの人とのことにも関係してくるのが今日の箇所から分かるんだ。私たちはイエス様の十字架によって救われ、神様の者となったね。

主の者として歩む時、今日自分を『きよく保つ』ためにできること、やめることはどんなことかな？考えてみよう！

2021/2/13(日)

## 申命記 24 章

今日の箇所では離婚と再婚のことや、弱者を保護するためのさまざまな定めが書かれています。

8-9節にはツアラアトについて書かれています。「主がミリアムにされたことを思い出しなさい」は、主の民が聖さを保たなければならないことを、彼らが経験した出来事(民数記 12:10-13)から確認するようにと促しています。また、寄留者や孤児についての定め(17-18)は、神様がして下さったみわざを忘れないための配慮です。同じように落ち穂やぶどうの実を残しておくようにという定め(19-22)は、ルツ記に書かれているように寄留者や孤児、やもめのものとしなければなりません。これもイスラエルが奴隷であったことを忘れないための勧めです。

あなたは、そして教会は、弱さのある方たちを守り支えるためにどのようなことができると思いますか？考えてみましょう！